

一般社団法人 日本化学連合

平成 25 年度事業報告

「一般社団法人」日本化学連合に移行してから 4 年目に入り西出宏之会長のもと、副会長、理事、監事が協力して、設立の趣旨を踏まえ、将来姿の議論も深めながら、化学系学協会の連合組織として活動を展開した。

加盟学協会（16 団体）との協同を密にすべく、運営委員会と企画委員会は、各学協会ではやり難い（一味違った）企画を提案、実行した。将来構想委員会では連合の役目とあり方、将来像を議論し、定款の改定という結論に達した。また、組織と財政基盤の充実のため、未加入の学協会にアピール打診し、複数の学会の加入予定の確約を得た。

1. 会員の増減と会費収入並びに補助金収入

正会員については現時点で会員数 16 となっているが、今年度幾つかの学協会に勧誘を行い、26 年度より 1 件の入会申込みがあり、更なる加入も見込められる。会費収入は 487 万円と横ばいである。賛助会員については団体 2、個人 8 であり、合計 42 万円の会費収入であった。

また、25 年度も（株）化学工業日報社および（一社）化学情報協会より日本化学連合主催事業「化学コミュニケーション賞 2013」の活動に対し、計 100 万円（@50 万円）の共催金を受けた。

2. 日本化学連合平成 25 年度活動報告

2.1 正会員学協会会長会

正会員 16 学協会の会長、事務局長の各 1 名を招聘し、8 月 29 日に開催された。各学協会の現状と課題については ppt 資料により説明いただき、2 時間余りに亘って意見交換された。学協会の運営など共通する問題、また新しい企画や工夫も披露され、有意義であったとの評価を得た。

2.2 化学コミュニケーション賞 2013

日本化学連合では設立の趣旨である『化学関係団体が賛同して開催する事業』を強化発展させるため、わが国において化学・化学技術に関係する啓発活動、情報発信などにより、化学教育、化学産業の育成、発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度を平成 23 年度に創設した。本年度（平成 25 年度）も昨年、一昨年に引き続き「化学コミュニケーション賞 2013」を主催した。

今年度も昨年に引き続き理事（運営委員会委員）を中心として「化学コミュニケーション賞 2013」の企画、立案、募集が実施された。

[運営委員会]

委員長	村松 淳司（理事 触媒学会）
副委員長	井手本 康（理事 電気化学会）
委員	伊藤 卓（理事 横浜国立大学 名誉教授／賞選考委員長）
委員	鞠谷 雄士（理事 繊維学会）
委員	関根 泰（理事 石油学会）
委員	中尾 真一（代表理事・副会長 工学院大学）

本年度の「化学コミュニケーション賞 2013」は（株）化学工業日報社、（一社）化学情報協会、（独）科学技術振興機構、（一社）日本サイエンスコミュニケーション協会の共催により 2013 年 10 月 1 日から募集を開始した。

2014年1月10日に締め切り、個人6件、団体4件、合計10件の応募があった。

[化学コミュニケーション賞 2013 賞選考委員会]

委員長	伊藤 卓 (横浜国立大学 名誉教授)
委員	青山 聖子 (サイテック・コミュニケーションズ)
委員	内田麻理香 (サイエンスライター/サイエンスコミュニケーター)
委員	小林 憲正 (横浜国立大学大学院工学研究科 教授)
委員	津山 重雄 (化学情報協会 理事 企画管理室長)
委員	村松 淳司 (東北大学多元物質科学研究所 教授)
委員	安永 俊一 (化学工業日報社 企画局 局長)
委員	渡辺 政隆 (日本サイエンスコミュニケーション協会 副会長)

これらの応募案件について、あらかじめ選任された上記選考委員により書面評価を行ったうえ、2014年2月14日(金)に開催の最終選考委員会で、化学コミュニケーション賞3件(個人2件、団体1件)および審査員特別賞を下記の通り選定した。

化学コミュニケーション賞 (個人)

受賞者：本間 善夫 (新潟県立大学国際地域学部 准教授)

業績の課題：「化学サイト“生活環境化学の部屋”と科学イベントの運営」

化学コミュニケーション賞 (団体)

受賞者：ライオン株式会社 研究開発本部 企画管理部

業績の課題：「身近な日用品を通しての“化学”教育支援活動」

化学コミュニケーション賞 (個人)

受賞者：栗山 恭直 (山形大学理学部物質生命化学科 教授)

業績の課題：「子どもから大人まで化学を楽しむ仕組み作り」

審査員特別賞 (個人)

受賞者：長尾 明美 (サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 専任講師)

業績の課題：「生涯学習における科学的リテラシー教育」

賞の授与式は3月17日(月)開催予定の第7回日本化学連合シンポジウム「化学コミュニティのビジョンをとらえる：エネルギー戦略とコミュニケーション」(化学会館7Fホール、13:00~19:00)の席上で挙行された。

2.3 第7回日本化学連合シンポジウム

本シンポジウムは、企画委員会が担当し、「化学コミュニティのビジョンをとらえる：エネルギー戦略とコミュニケーション」として、エネルギー・資源に関わる状況が、シェール革命はじめ急激に変化する中で、次世代に向けての道筋が問われている現在、第1部においては、今後のエネルギー戦略について、化学コミュニティが担うべき役割を資源、セキュリティ、産業の立場から解説、展望いただく。第2部では、本連合が化学・化学技術に関する啓発活動、情報発信を通じ、「化学」

を社会に浸透させ相互の理解を深めることに貢献した個人や団体を顕彰する「化学コミュニケーション賞」の表彰式に先立ち、科学コミュニケーション分野で活躍されている方々に講演を依頼した。社会にその意義をアピールすることを目的としている。

[企画委員会]

委員長	山元 公寿 (理事 東京工業大学 資源化学研究所)
副委員長	只野 金一 (理事 有機合成協会)
委員	石谷 治 (理事 光化学協会)
委員	伊藤 眞義 (理事 日本ゴム協会)
委員	小松 晃之 (中央大学 理工学部 教授)
委員	田中健太郎 (名古屋大学 大学院理学研究科 教授)

第7回日本化学連合シンポジウム

「化学コミュニティのビジョンをとらえるーエネルギー戦略とコミュニケーションー」

日時：平成26年3月17日(月) 13:00 - 19:00

会場：日本化学会 化学会館 7階ホール

主催：(一社)日本化学連合

後援：(独)科学技術振興機構、(株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会、
(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会

プログラム

第1部<13:00 - 14:40> [司会 山元 公寿 (東京工業大学)]

基調講演 「エネルギー安全保障戦略」

(一財)日本エネルギー経済研究所・特別顧問、前 IEA 事務局長 田中 伸男

講演1 「シェール革命とは何か」

(独法)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 調査部・上席研究員 伊原 賢

講演2 「シェールガスをはじめとする非在来型化石資源と今後のエネルギー・化学」

(早稲田大学先進理工学部・教授) 関根 泰

第2部<14:55 - 17:00>

基調講演 「化学物質のリスクコミュニケーション」

(淑徳大学総合福祉学部・教授) 北野 大

講演1 「センスよくわかりやすい！ 研究者のためのビジュアルデザイン」

(筑波大学芸術系・准教授) 田中佐代子

表彰式「化学コミュニケーション賞 2013」 <16:00 - 17:00>

選考委員長挨拶・選考結果説明

(化学コミュニケーション賞選考委員長・日本化学連合理事) 伊藤 卓

授与式

(日本化学連合会長) 西出 宏之

業績紹介

1. 化学サイト“生活環境化学の部屋”と科学イベントの運営

(新潟県立大学国際地域学部) 本間善夫

2. 身近な日用品を通しての“化学”教育支援活動 ライオン(株) 研究開発本部 企画管理部

3. 子どもから大人まで化学を楽しむ仕組み作り (山形大学理学部物質生命化学科) 栗山 恭直

第3部 <17:15 - 19:00> 交流会

シンポジウムの参加者は一般参加者 104 名、招待参加者 6 名、化学連合役員 12 名、計 122 名で、大変盛況であり、講演内容も充実しており、成功裏に終了した。

3. 会計

平成 25 年度は会費収入以外に賛助会費、補助金の一部（化学工業日報社、化学情報協会より）をもって活動する予算を立て、「化学コミュニケーション賞 2013」、「第 7 回日本化学連合シンポジウム」の企画・実施に注力した。順調に予算を執行し、次期繰越金は約 350 万円である。

4. 学協会の活動の連携業務開拓の継続

他学協会と連携したシンポジウムを平成 19 年度より継続している。平成 25 年度は以下の企画が実施された。

1. 平成 25 年 9 月 17 日（火）の触媒学会東日本支部主催の東北地区講演会において、日本化学連合との共同企画講演会が開催され、化学連合常務理事瀬川幸一による「化石資源による、我が国のエネルギーの安全保障」の講演があり、時宜を得た講演で関心を持つ聴衆も多く有意義な講演会であった。
2. 平成 25 年 10 月 25 日（金）に開催した文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「人工光合成による太陽光エネルギーの物質変換：実用化に向けての異分野融合」主催の第 3 回「フォーラム：人工光合成」（立命館大学朱雀キャンパス大講義室）に本連合として協賛を行った。

5. 将来構想委員会

平成 25 年度以降の化学連合の道筋および定款の「目的」について化学連合の立ち位置を明確に表記するための議論を 2 度にわたる委員会を開催して検討した。

11 月 15 日に開催された 25-2 理事会において定款第 3 条の「目的」の表記の修正案について可決された。

[将来構想委員会]

委員長	井上 晴夫（代表理事・副会長）
副委員長	岩澤 康裕（理事 電気通信大学 特任教授）
委員	大塚 浩二（理事 クロマトグラフィー科学会）
委員	川島 信之（理事 日本化学会）
委員	高田 雅介（理事 日本セラミックス協会）
委員	高田十志和（理事 高分子学会）
委員	横山 祐作（理事 日本薬学会）
委員	須藤 雅夫（理事 化学工学会）
委員	寺前 紀夫（理事 日本分析化学会）
委員	山本 鋼志（理事 日本地球化学会）
オブザーバー	中井 武（監査 東京工業大学 名誉教授）

6. 役員候補選考委員会

第 2 回通常理事会（11 月 15 日）において、会長から指名された 7 名をもって役員候補選考委員会を設置し、平成 26 年度、27 年度の会長候補、副会長候補の選任を行うこととした。同選考委員会は中尾副会長を委員長として選出し、1 月 31 日と 2 月 27 日の 2 回開催され、会長候補 1 名、副会長候補 3 名を選考した。

7. 情報発信

化学連合ニュースは本年度 3 回発行した。正会員、賛助会員、役員、委員に送付しており、平成 26 年 2 月下旬に 87 号「化学コミュニケーション賞 2013」受賞者選考の報告を発行した。

ホームページの表紙、構成を刷新し、発信機能を強化した。

8. 処務の概要

8.1 理事会 4回

社員総会 1回

8.2 理事 23名、監事 2名

8.3 委員会など

運営委員会	1回	(化学コミュニケーション賞企画・実施)
企画委員会	1回	(シンポジウム企画・実施、HPの検討)
将来構想委員会	2回	(連合のあり方、将来像の提言、定款の改定)
役員選考委員会	2回	(次期役員を選出)
正会員会長会	1回	
顧問会	1回	

以上